

県庁舎跡地活用に関する検討状況

1. 埋蔵文化財調査について

- ▼旧庁舎の解体工事終了後、昨年10月16日から1月15日まで、予定していた埋蔵文化財調査（範囲確認調査）を実施した。
- ▼また、調査結果を踏まえた遺構等の取扱いについてご意見を伺うため、埋蔵文化財等の専門家を委嘱し、昨年12月と1月に意見聴取を実施した。

○調査結果と専門家からの主な意見

①旧県庁本館が建っていた部分の中央から東側について

- ・井戸の遺構を除いて、当該エリアの大部分について、江戸期以前の遺構を含まない地山（じやま）であることを確認した。

②旧県庁南側について

- ・H22年度に実施した予備調査において、石垣の存在が一部確認されており、今回の調査で江戸時代の石垣が改めて複数確認された。

<専門家からの意見>

旧南門付近のスロープ部分や旧立体駐車場付近で江戸期の石垣の遺構が良好な状態で確認されており、周辺の石垣の状態やラインを確認するため、さらに詳細な調査を進め、その活用方法を検討してほしい。

また、今回の調査で江戸時代初期の町屋の礎石と思われる遺構などが確認された。

<専門家からの意見>

- ・江戸期前半の奉行所と出島との間の空間の状況が明らかになったことは今回の調査の成果であり、これらの遺構を壊さないよう配慮する必要。
- ・隣接する石垣の詳細な調査と併せ、さらに広い範囲を調査して遺構等の状況を確認のうえ、その活用方法を検討してほしい。

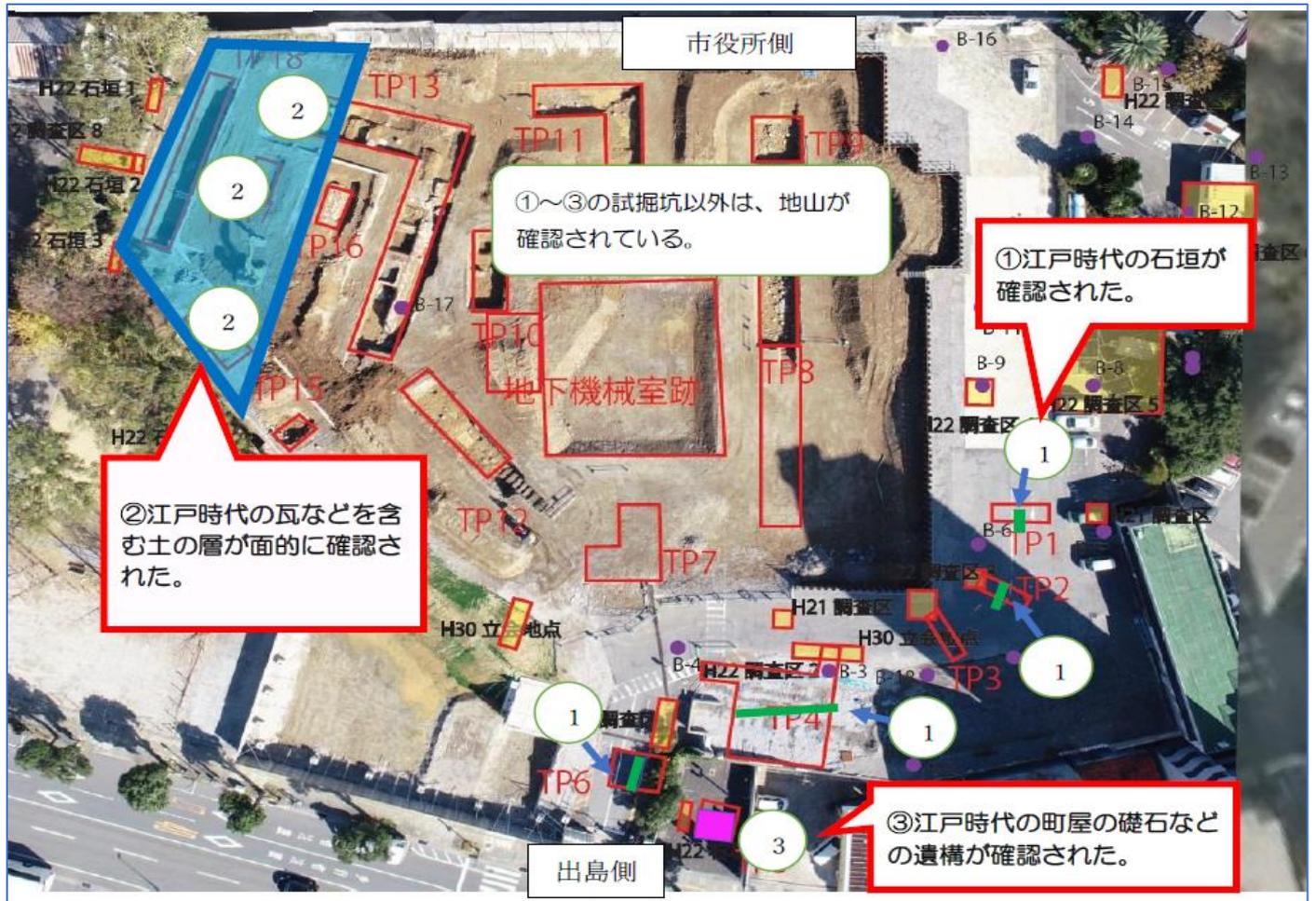
③旧県庁西側について

瓦と漆喰等が混ざった土の層などが確認され、上層は1660年代を下限とする遺物が、下層は1630～40年代の遺物が確認された。また、確認された土の層の下に、より古い時代の層が残っている可能性がある。

<専門家からの意見>

- ・今回の調査において、1600年代の複数の時代の遺物を含む層などが確認されており、その下にはさらに古い層が残っている可能性があることから、これらの層や遺構を壊さないよう配慮する必要がある。また、周辺部分のさらに詳細な調査の実施を検討してほしい。

埋蔵文化財調査結果の概要



2. 県および長崎市の対応

①県としての考え方

- これまでも必要な埋蔵文化財調査を予断を持たず実施してきている。今回出土した遺構等の周辺について、さらに詳細な調査を行う必要がある。
- 今後調査を予定している中、県として、現時点においては、出土した遺構付近に建物を建てることを決定することは難しいとの認識。

②長崎市としての考え方

- 去る1月31日、専門家からの意見や整備スケジュールを考慮すると、新たな文化施設を県庁舎跡地で実現することは難しいことから、現市庁舎跡地に整備したいとの考えが示された。

3. 今後の対応

①詳細な埋蔵文化財調査の実施

今回確認された跡地西側の遺構や、跡地南側の石垣や町屋等の遺構の周辺について、面的な広がりを確認する等のため、さらに詳細な調査を実施し、調査結果を踏まえ保存・活用のあり方を判断する。

今後の埋蔵文化財調査について



※②や③における調査手法（内容確認調査）

- より広い範囲で調査区域を設定し、遺構がない場所を探しながら、更に下層を調査する手法。
(遺構がない場所がない場合は、より重要度の低い遺構を記録保存しながら更に下層を調査する。)

②県庁舎跡地活用策のさらなる検討の考え方

懇話会の提言等を踏まえ、整備する機能等の整理を行い、県議会などにおいて様々なご議論をいただきながら検討を進めてきている。

○これまでの検討経過

(広場) 県内各地の物産展など様々なイベントの開催や、県民・市民の日常的な憩いの場づくり等により、これまで長崎になかった新たな賑わいの創出につながるものとしてご議論をいただき、検討を進めてきている。

(交流・おもてなしの空間)

経済団体をはじめ関係者の皆様からも、県民・市民や観光客の交流によって賑わいを生み出す機能について要請をいただき、またこの地を訪れた観光客の皆様にも、県内各地を巡っていただくきっかけとなるような歴史や観光等の情報発信、カフェ等の飲食機能の整備などについてご議論をいただき、検討を進めてきている。

○こうしたご議論を踏まえ、**「広場」「交流・おもてなしの空間」の整備を基本として、今後の活用策を検討していく必要があるものと考えている。**

○併せて、**新たにどのような機能を付加することができるか**についても、民間デベロッパーや商業空間デザイナーなど、**幅広い専門家にご意見を伺いながら議論を深めていきたい**と考えている。

○このほか、県警本部跡地の活用や第三別館の取扱い等について引き続き検討を続けるとともに、早期に賑わいを創出するため、**先行的な賑わいづくりなどについても検討を進めていきたい**と考えている。

(先行的な賑わいづくりの検討)

全体の活用策を今後整理していく中で、先行的な賑わいの創出に向けた、石垣下の空間の活用などについても検討を進めていく。

○なお、ホール機能は、長崎市が現市庁舎跡地に質の高いホールを整備されるのであれば、**県において、県庁舎跡地に同様の機能を有する専用ホールのような施設を整備する必要はない**と考えている。

○今後の進め方としては、年内を目途に埋蔵文化財調査を実施しながら、並行して、基本構想策定の中で、コンセプトや整備すべき機能、先行的な賑わいづくり等について整理を進め、なるべく早い段階から県議会や関係者の皆様に広くご意見を伺い、歴史を活かし、賑わいの創出につながるような活用策の検討を進めていく。